

第30期 中間事業のご報告

2008年4月1日から2008年9月30日まで



私たちの将来像、
それはユニークネスの集合体です。

CTC

Challenging Tomorrow's Changes

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

証券コード：4739

2008年度経営方針

経営統合の成功を確認する

リーディング・カンパニーに進化するための施策を実行する

経営効率・収益性を向上するための施策を実行する

目 次

トップメッセージ	1
TOPICS	2
ユーザー事例紹介	3
四半期連結業績の概況	4
四半期連結財務諸表	5
四半期個別財務諸表	7
会社概要・役員	8
株式情報・株主メモ	9



**ビジネス環境が大きく変わる中、
変化をチャンスに変えて、
業界のリーディング・カンパニーを目指してまいります**

代表取締役社長
奥田 陽一

株主ならびに投資家のみなさまにおかれましては、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

世界的な金融市場の混乱や、原燃料価格の高騰、円高の進展等が実態経済や企業収益にも影響を及ぼし、情報サービス産業におきましても、投資抑制や案件規模縮小の動きがみられるなど当社を取り巻くビジネス環境は厳しさを増しつつあります。その一方で、仮想化技術の普及やSaaSなどの新しいサービスの台頭、運用コスト削減を企図したアウトソーシング需要の高まり、企業におけるIT資産の「所有」から「利用」へのシフトなどの構造変化が一段と進み、経営統合から2年が経過した当社にとって、これからがワンストップでITサービスすべてを提供できる「総合力」を活かせる環境になってくると確信しております。

このようなビジネス環境の変化に対して、迅速かつ柔軟に対応することが重要であり、当社が強みとしてきた製品販売に加え、サービス・開発ビジネスを強化・拡大することにより、中長期的に安定した収益基盤の構築に向けて注力しているところです。当第2四半期（累計）におきましても、環境にも配慮した次世代型データセンターともいえる目白坂デー

タセンターを開設し、増加基調にあるアウトソーシングビジネスの獲得を進めているほか、仮想化技術を活用した従量課金型の新サービス「IT統合基盤サービス（Techno CUVIC）」の提供開始、インド・ウィプロ社との協業を通じた基幹系システム開発やグローバル対応への布石など、さらなる成長に向けての諸施策を実行する段階にあります。

当第2四半期（累計）の業績は、企業の投資抑制やインフラ投資の一巡などにより製品販売が低調に推移したことに加えて、開発不採算案件の発生や社内システム更新に伴う費用増等から減収減益決算となったものの、受注高はサービスビジネスを中心に堅調に推移し、受注残高も過去最高水準に到達するなど、ビジネスモデルの進化とともに着実に実績も積み上がりつつあります。当社といたしましては、今後もプロジェクト管理の強化やコスト抑制に積極的に取り組むとともに、ビジネスモデルの変革を一層推し進めることにより、規模ならびに収益性の両面において、業界トップレベルの企業を目指してまいります。

株主、投資家のみなさまにおかれましては、引き続き、ご理解、ご支援くださいますようお願い申し上げます。

有力ベンダーとの協業により 仮想化ビジネスに注力

仮想化技術を利用して、サーバやネットワーク機器などのコンピュータリソースを統合する「仮想化ビジネス」に注力しています。仮想化ソフトとハードウェアを組み合わせた独自ソリューション「Pool」シリーズの販売を推進するほか、先進ベンダーとの協業も積極的に展開しています。7月には、仮想化分野における最先端ベンダーである米ヴイエムウェアと国内で初めて共同検証施設を開設しました。また、同じく7月にはシスコシステムズとネットワークの仮想化で、8月にはマイクロソフトおよびヒューレットパッカートの両社とサーバの仮想化で、それぞれ協業に関する発表をするなど、大手ベンダーとの協力体制も強化しています。

さらに今後は、パソコンなどのデスクトップ環境や、ワープロや表計算ソフトといったアプリケーションソフトなどの仮想化技術も取り入れることで、仮想化ビジネスのさらなる強化を図ります。

ベンダーと協力して仮想化をテーマにした説明会を多数開催



地球環境に配慮した 「目白坂データセンター」がオープン

サービスビジネスの拡大のため、東京・山手線内では最大規模となる環境配慮型データセンター「目白坂データセンター（通称：MDC）」を10月1日に開設しました。

MDCは、堅牢なファシリティと最新のセキュリティ技術による万全の信頼性に加え、直流電源機器の採用による電力変換ロスの低減や自然エネルギーの有効活用など、環境にも配慮した最先端のデータセンターです。

今後は、MDCをはじめとする計5ヵ所のデータセンターにより様々なアウトソーシングサービスを展開するとともに、新たなサービスビジネスの開発にも注力していきます。

CTCのサービスビジネスを支える目白坂データセンター(MDC)



「お父さん、お母さんはどんな仕事をしているの？」 夏休みオフィス見学ツアーを開催

CTCで働くお父さんやお母さんの仕事を子供達にも知ってもらうため、社員の子供達を対象に、霞が関本社の見学ツアーを夏休み期間中の8月に実施しました。

当日は、コンビニエンスストアのPOSシステムの仕組みや風力発電を維持管理するためのシミュレーション技術など、日常生活に関わりの深い分野で活用されている

ITを分かりやすく紹介したほか、テレビ会議システムを使って福岡オフィスとじゃんけん大会をするなど、「ITでできること」について様々な勉強をしました。また、お父さんやお母さんが働くオフィス内の見学に加え、普段なかなか入ることのできない社長室を訪問するなど、盛りだくさんのプログラムに子供達も大満足の様子でした。



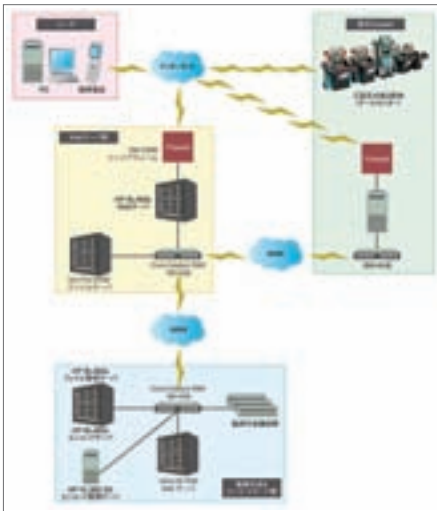
お父さんやお母さんの働く姿に興味津々の子供達

セガの動画サービス『三国志大戦 演武場』を支えるブレードサーバを構築



「三国志大戦」のプレイ画面
©SEGA

省スペースと拡張性を実現した機器構成



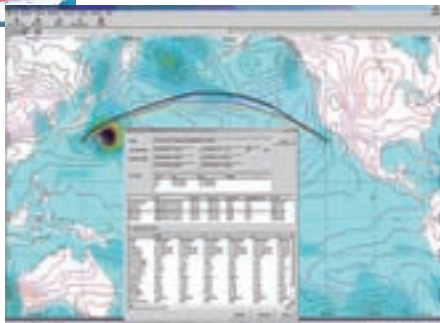
CTCは、ゲームメーカーの老舗である（株）セガが2008年7月から開始した新サービス『三国志大戦 演武場』のシステムインフラ部分を構築しました。『三国志大戦 演武場』は、セガのアーケード用人気ゲーム『三国志大戦3』において、自分のプレイを動画で振り返ることができるサービスです。CTCは、このサービスのインフラを構築するにあたり、大量のデータを高速処理する「HP BladeSystem c-Class」と大容量動画用ストレージ「Isilon IQ」を採用し、柔軟で拡張性のあるシステムを実現しました。また、構築に先立ち、CTC独自の検証センター「TSC（テクニカルソリューションセンター）」を活用することで、短期間でトラブルのないシステム開発に成功しました。

科学分野のノウハウを結集し、ユニバーサル造船の運航支援システム「Sea-Navi®」を開発



シップ・オブ・ザ・イヤー2001を受賞した
M/V KOHYOHSAN

海気象データおよび
推奨航路探索結果表示画面

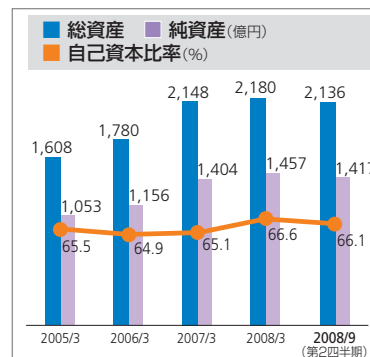
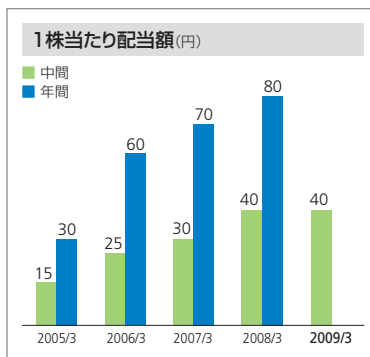
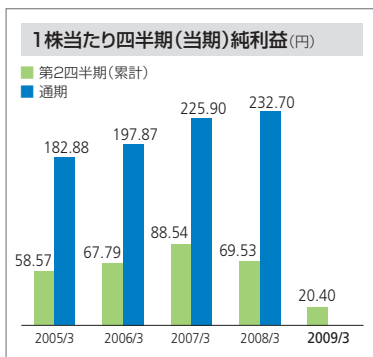
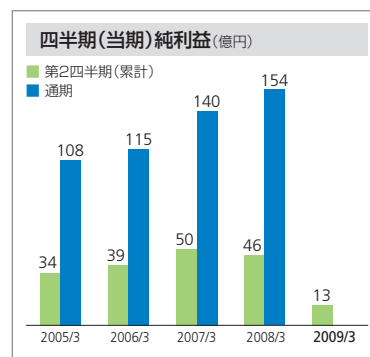
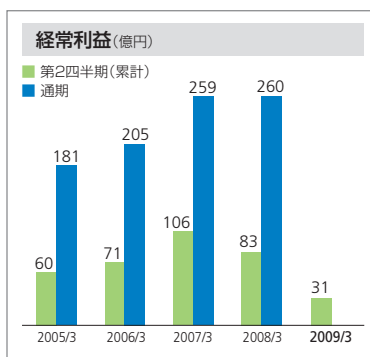
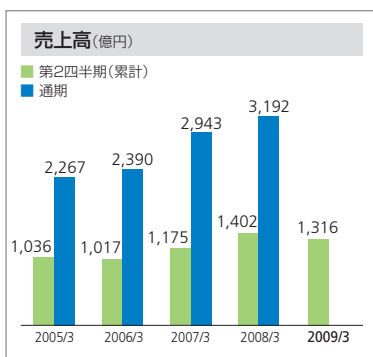


地球温暖化防止のため、様々な企業がCO₂削減に取り組む中、国内トップクラスの造船会社であるユニバーサル造船（株）は、海上での最適航路を選択することで燃費削減を可能にする運航支援システム「Sea-Navi®」を開発しました。CTCは、2005年のプロジェクト開始から、地球科学分野技術、構造解析技術、気象情報分析技術、そしてシステム開発力を結集して協力しています。シミュレーションの結果、大きな燃費削減効果が得られることがわかり、今後の実用化に向けて、ユニバーサル造船とCTCは、二人三脚で取り組みを続けています。

四半期連結業績の概況

当第2四半期（累計）は、通信業界向けではNGNやWiMAX等の次世代通信網関連でのインフラ構築案件、金融業界向けでは金融工学を活用したリスク管理系システムや市場取引系システム、製造業・流通業界向けでは主要顧客を中心とした基幹系の大型案件、公共関連ビジネスなどで受注実績を積み上げました。また、データセンタービジネスでは5拠点目となる目白坂データセンターを竣工するとともに、仮想化技術を活用した従量課金型の新サービスである「IT統合基盤サービス（Techno CUVIC）」の提供拡大や運用基盤の整備に努めました。

当第2四半期（累計）の売上高は、企業業績の悪化に伴う投資抑制やインフラ投資の一巡などを受けて、ハードウェアを中心とした製品販売が低調に推移したほか、サービス・開発ビジネスの拡大に伴う売上計上の長期化傾向等により、131,626百万円（前年同期比6.2%減）となりました。利益面では、ビジネスモデルの変革を推進する中、開発不採算案件の増加により、売上総利益率は前年同期の25.2%から24.8%に低下しました。販売費及び一般管理費は、人員増強や社内システム更新に伴う費用増等もあり29,873百万円（同8.8%増）となり、営業利益は2,806百万円（同64.5%減）となりました。また、持分法による投資利益の減少や投資有価証券評価損の計上等から、経常利益は3,106百万円（同62.8%減）、四半期純利益は1,336百万円（同71.1%減）となりました。しかしながら、受注残高は151,624百万円と過去最高水準に到達しました。



四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表 (単位：百万円)

科目	当第2四半期	前第2四半期	前期
	2008年9月30日現在	2007年9月30日現在	2008年3月31日現在
資産の部			
流動資産	169,608	165,672	178,048
固定資産	44,032	39,037	40,043
有形固定資産	18,454	14,162	14,331
無形固定資産	5,984	4,571	6,265
投資その他の資産	19,593	20,303	19,447
資産合計	213,641	204,709	218,092
負債の部			
流動負債	69,246	62,347	71,281
固定負債	2,647	1,582	1,098
負債合計	71,893	63,930	72,380
純資産の部			
株主資本	140,638	138,982	144,412
資本金	21,763	21,763	21,763
資本剰余金	33,076	33,076	33,076
利益剰余金	89,133	85,968	94,099
自己株式	△ 3,334	△ 1,825	△ 4,526
評価・換算差額等	574	1,270	760
その他有価証券評価差額金	606	1,220	768
繰延ヘッジ損益	△ 12	3	△ 7
為替換算調整勘定	△ 19	46	△ 0
少数株主持分	534	526	539
純資産合計	141,748	140,779	145,712
負債・純資産合計	213,641	204,709	218,092

資産合計

主に商品、有価証券、前払費用、建物及び構築物が増加した結果、資産合計は前年同期比8,931百万円増の213,641百万円となりました。

負債合計

主に前受金、前受収益が増加したことにより、負債合計は前年同期比7,962百万円増の71,893百万円となりました。

純資産合計

主に自己株式の取得、利益剰余金の増加により、純資産合計は前年同期比968百万円増の141,748百万円となりました。

四半期連結財務諸表

四半期連結損益計算書 (単位：百万円)

科目	当第2四半期	前第2四半期	前期
	2008年4月1日から 2008年9月30日まで	2007年4月1日から 2007年9月30日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
売上高	131,626	140,285	319,289
売上原価	98,945	104,918	238,869
売上総利益	32,680	35,366	80,420
販売費及び一般管理費	29,873	27,466	55,406
営業利益	2,806	7,899	25,013
営業外収益	423	528	1,114
営業外費用	124	71	73
経常利益	3,106	8,356	26,054
特別利益	115	382	388
特別損失	598	517	1,161
税金等調整前四半期(当期)純利益	2,623	8,221	25,281
法人税、住民税及び事業税	1,933	2,749	10,010
法人税等調整額	△ 716	827	△ 185
少数株主利益	70	14	36
四半期(当期)純利益	1,336	4,630	15,419

売上高

製品販売が低調に推移したことにより、売上高は前年同期比8,659百万円減の131,626百万円となりました。

経常利益

開発不採算案件の増加、人件費や社内システム構築費用の増加に加え、持分法投資利益の減少等もあり、経常利益は前年同期比5,250百万円減の3,106百万円となりました。

四半期純利益

以上の結果、四半期純利益は前年同期比3,293百万円減の1,336百万円となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)

科目	当第2四半期	前第2四半期	前期
	2008年4月1日から 2008年9月30日まで	2007年4月1日から 2007年9月30日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,450	△ 1,341	10,486
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,181	7,098	3,577
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,242	△ 4,778	△ 10,137
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 18	13	△ 33
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 10,893	993	3,893
現金及び現金同等物の期首残高	70,977	67,083	67,083
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	60,083	68,076	70,977

現金及び現金同等物の四半期末残高

営業活動によるキャッシュ・フローは、主として税金等調整前四半期純利益が減少したことにより前年同期比3,109百万円減少し、4,450百万円の支出となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、主として前年同期には預け金の払戻しによる収入が10,000百万円あったことにより前年同期比8,280百万円減少し、1,181百万円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得などにより前年同期比464百万円減少し、5,242百万円の支出となりました。

結果、現金及び現金同等物の四半期末残高は前年同期比7,992百万円減少し60,083百万円となりました。

四半期個別財務諸表

四半期貸借対照表 (単位：百万円)

科 目	当第2四半期	前第2四半期	前 期
	2008年9月30日現在	2007年9月30日現在	2008年3月31日現在
資産の部			
流動資産	163,036	158,275	169,744
固定資産	43,474	38,838	39,672
有形固定資産	17,735	13,845	13,882
無形固定資産	5,775	4,361	6,066
投資その他の資産	19,962	20,631	19,723
資産合計	206,510	197,113	209,417
負債の部			
流動負債	74,268	65,620	76,540
固定負債	1,727	786	346
負債合計	75,995	66,406	76,887
純資産の部			
株主資本	129,927	129,507	131,766
資本金	21,763	21,763	21,763
資本剰余金	33,076	33,076	33,076
利益剰余金	78,422	76,494	81,454
自己株式	△ 3,334	△ 1,825	△ 4,526
評価・換算差額等	587	1,199	763
その他有価証券評価差額金	599	1,198	770
繰延ヘッジ損益	△ 12	1	△ 7
純資産合計	130,514	130,707	132,530
負債・純資産合計	206,510	197,113	209,417

四半期損益計算書 (単位：百万円)

科 目	当第2四半期	前第2四半期	前 期
	2008年4月1日から 2008年9月30日まで	2007年4月1日から 2007年9月30日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
売上高	120,576	129,424	295,651
売上原価	95,127	100,163	230,373
売上総利益	25,449	29,260	65,277
販売費及び一般管理費	26,968	25,205	50,253
営業利益	△ 1,518	4,054	15,024
営業外収益	4,776	5,241	6,675
営業外費用	129	56	108
経常利益	3,127	9,240	21,590
特別利益	669	9,104	9,104
特別損失	685	542	1,133
税引前四半期(当期)純利益	3,111	17,802	29,561
法人税、住民税及び事業税	712	1,649	6,435
法人税等調整額	△ 872	549	△ 96
四半期(当期)純利益	3,270	15,604	23,222

会社概要 (2008年9月30日現在)

会社名……………伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（略称CTC）
 *略称の「CTC」はプリンシプルである「Challenging Tomorrow's Changes」を表しています。

英文社名……………ITOCHU Techno-Solutions Corporation

本社所在地……………〒100-6080 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル
 TEL 03-6203-5000（代）
 URL <http://www.ctc-g.co.jp/>

創立……………1972年4月1日

資本金……………21,763百万円

社員数……………6,749名（CTCグループ）

事業内容……………コンピュータ・ネットワークシステムの販売・保守、ソフトウェア受託開発、
 情報処理サービス、科学・工学系情報サービス、サポート、その他



<http://www.ctc-g.co.jp/>

役員 (2008年9月30日現在)

取締役・監査役

代表取締役社長	奥田陽一
取締役	小菅和夫 (*1)
取締役	中野亨 (*1)
取締役	西山茂樹 (*1)
取締役	大西恭二 (*2)
取締役	後藤健 (*3)
取締役	藁科至徳 (*3)
取締役	兼松泰男 (*3)
取締役	桜庭慎一郎 (*3)
取締役	鎌田稔 (*3)
取締役 (非常勤)	松本孝利
取締役 (非常勤)	高取成光
取締役 (非常勤)	直田宏
常勤監査役	笠間正夫
常勤監査役	柴田寛
監査役	林光佑
監査役	池田修二

執行役員

常務執行役員	石井建治
常務執行役員	松澤政章
執行役員	大原章生
執行役員	齊藤晃
執行役員	大久保忠崇
執行役員	西村隆治
執行役員	菖蒲田徹
執行役員	三浦吉道
執行役員	城田勝行
執行役員	横山良治
執行役員	寺田育彦
執行役員	正西康英

執行役員	岡松宏明
執行役員	須崎隆寛
執行役員	鈴木誠治
執行役員	江田尚
執行役員	谷隆博
執行役員	奥木洋一
執行役員	南部信之
執行役員	原口栄治
執行役員	森山一信
執行役員	加藤光明
執行役員	田村裕之

(*) 1. 副社長執行役員を兼務しております。
 2. 専務執行役員を兼務しております。
 3. 常務執行役員を兼務しております。

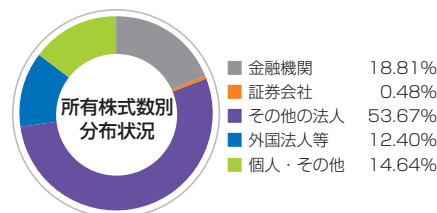
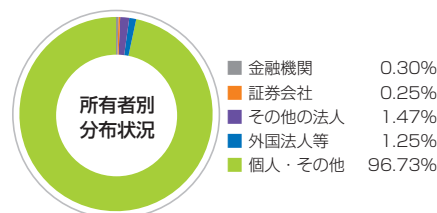
株式情報 (2008年9月30日現在)

発行可能株式総数	発行済株式総数	株主数	株式分布状況
246,000,000株	66,000,000株	21,031名	

大株主の状況

株主名	持株数(株)	所有比率(%)
伊藤忠商事株式会社	33,665,400	51.01
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,139,100	3.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (住友信託銀行再信託分・伊藤忠商事株式会社退職給付信託口)	2,072,000	3.14
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	1,801,000	2.73
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,791,000	2.71
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	1,509,800	2.29
シービーニューヨーク オービス エスアイシーアーヴィー	1,144,000	1.73
CTC社員持株会	714,668	1.08
クレジット スイス ファースト ポストン ヨーロッパ	551,000	0.83
ピービー セク アイエヌティ ノントリーティ クライアント	491,900	0.75
指定単 受託者 中央三井アセット信託銀行株式会社 1口		

(注) 1. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(住友信託銀行再信託分・伊藤忠商事株式会社退職給付信託口)の持株数は、伊藤忠商事株式会社が保有する当社株式を退職給付信託に拠出したものであります。
2. 上記のほか、当社が所有している自己株式970,022株があります。



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 このほか必要がある時は、あらかじめ公告して基準日を定めます。
定時株主総会	6月に開催いたします。
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
(郵便物送付先)	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ※平成21年1月5日より、当社株主名簿管理人であるみずほ信託銀行への郵便物送付先が、移転のため以下の通り変更となります。 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
(電話照会先)	☎ 0120-288-324
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインバスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
銘柄コード	4739 (略称 CTC)

CTC

▶ *Challenging Tomorrow's Changes*